

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年3月13日

【四半期会計期間】 第18期第3四半期(自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

【会社名】 株式会社ビューティガレッジ

【英訳名】 BEAUTY GARAGE Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役CEO 野村 秀輝

【本店の所在の場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 経営管理グループ統括責任者 齋藤 高広

【最寄りの連絡場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 経営管理グループ統括責任者 齋藤 高広

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第17期 第3四半期 連結累計期間	第18期 第3四半期 連結累計期間	第17期
会計期間		自 2018年5月1日 至 2019年1月31日	自 2019年5月1日 至 2020年1月31日	自 2018年5月1日 至 2019年4月30日
売上高	(百万円)	9,745	11,487	13,852
経常利益	(百万円)	303	431	646
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	171	245	380
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	169	244	380
純資産額	(百万円)	3,599	3,961	3,810
総資産額	(百万円)	6,347	6,577	6,827
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	26.96	38.72	59.80
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	26.96	-	59.80
自己資本比率	(%)	55.8	58.4	54.9

回次		第17期 第3四半期 連結会計期間	第18期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年11月1日 至 2019年1月31日	自 2019年11月1日 至 2020年1月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	7.21	12.91

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動については、前連結会計年度まで持分法を適用しない非連結子会社であった台湾美麗平台股份有限公司を重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善を背景とし、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら消費税増税や自然災害の影響等により、個人の消費環境は先行き不透明な状況が継続しております。また世界経済においても、全体として緩やかな成長を維持したものの、中国をはじめとするアジア新興国地域の景気悪化の懸念や、各国の貿易政策等の通商問題といった不安定要素もあり、先行きは不透明な状態にあります。

美容業界におきましても、顧客単価の下落や来店頻度の減少といった厳しい事象が続いており、結果として低価格店の登場や専門店への細分化、フリーランスの増加等、ビューティサロンの経営環境も変化してきており、生き残りをかけた店舗間競争が激化してきております。

そのような状況下、当社グループでは提供する商品・サービスの拡充とレベルアップに努めるとともに、WEBマーケティング施策による既存顧客の活性化と新規顧客の獲得増加に向けて注力してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は11,487,039千円（前年同期比17.9%増）、売上総利益は3,527,991千円（前年同期比17.5%増）、営業利益は415,090千円（前年同期比32.9%増）、経常利益は431,008千円（前年同期比42.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は245,127千円（前年同期比42.8%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

物販事業

物販事業においては、インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE OnLine Shop」、全国主要都市のショールーム＋法人営業チーム、カタログ通販誌「BG STYLE」および海外営業拠点を通して、理美容機器や化粧品・消耗品等のプロ向け美容商材を、国内外の理美容室、エステサロン、リラクゼーションサロン、ネイルサロン、アイラッシュサロン向けに提供しております。

当第3四半期連結会計期間におきましては、消費税にともなう駆け込み需要後の反動減も少々ありましたが、ECサイトのUI/UXの着実な改善と進化を継続することで、EC経由売上高のさらなる拡大を目指してまいりました。

この結果、EC売上高が前年同期比23.7%増（物販売上構成比76.1%）、化粧品・材料売上高が前年同期比29.2%増（物販売上構成比49.0%）と伸長し、物販事業全体としての売上高は8,960,951千円（前年同期比18.3%増）、セグメント利益は405,845千円（前年同期比37.3%増）となりました。

店舗設計事業

店舗設計事業におきましては、連結子会社である株式会社タフデザインプロダクトにより東京・金沢・福岡・大阪・名古屋において店舗設計・工事施工監理を提供しております。

トレンドを捉えたデザイン性の高い店舗設計デザインの提案を行うことで、独立開業を目指す顧客から高い支持を得ていることから、設計士やデザイナーの増員を行い積極的な営業活動を行ってきた結果、新規開業顧客に加えて大手チェーン店本部からの受注が増加しました。この結果、当事業の売上高は2,164,268千円（前年同期比16.0%増）、セグメント利益は107,850千円（前年同期比45.6%増）となりました。

その他周辺ソリューション事業

その他周辺ソリューション事業におきましては、ビューティサロンの開業と経営に必要なサポートとして開業プロデュース、居抜き物件仲介、集客支援、講習・アカデミー、損害保険、システム導入支援、店舗リース、M&A仲介等の各種ソリューションサービスを、各専門インターネットサイトと全国主要都市のショールームを通して提供しております。

当該事業は、単体での収益化以上に当社グループの主力事業である物販事業や店舗設計事業への入口、繋ぎ役としての役割に重きを置くようになっております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、開業プロデュース、店舗リース、講習・アカデミーのソリューションサービスが堅調に伸長したことにより、当事業の売上高は361,819千円（前年同期比19.7%増）、セグメント利益は28,978千円（前年同期比130.7%増）となっております。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて3.1%減少し、5,255,377千円となりました。これは、主に棚卸資産の増加があったものの、現金及び預金が減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて5.8%減少し、1,321,692千円となりました。これは、主に無形固定資産及び投資その他の資産の減少によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて17.0%減少し、2,221,817千円となりました。これは、主に仕入債務、未払金及び未払法人税等の減少によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べて16.2%増加し、393,769千円となりました。これは、主に長期借入金の増加によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて4.0%増加し、3,961,483千円となりました。これは、主に自己株式の取得による減少87,184千円と配当金の支払に伴い利益剰余金の減少57,379千円があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金の増加245,127千円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	1,889,032	+14.4

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 金額は製造原価によっております。

仕入実績

当第3四半期連結累計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
物販事業	5,974,544	+41.7
その他周辺ソリューション事業	145,954	+270.3
合計	6,120,498	+43.8

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 金額は仕入価格によっております。

受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	2,466,603	+28.2	497,660	19.1

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	区分	販売高(千円)		前年同四半期比(%)
		前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	
物販事業		7,576,767	8,960,951	+18.3
	理美容機器・用品	3,721,421	4,128,755	+10.9
	化粧品等	3,402,547	4,394,563	+29.2
	金属スチール家具	452,798	437,631	3.3
店舗設計事業		1,866,142	2,164,268	+16.0
その他周辺ソリューション事業		302,366	361,819	+19.7
合計		9,745,276	11,487,039	+17.9

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,160,000
計	21,160,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年1月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年3月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,376,000	6,376,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	6,376,000	6,376,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年11月1日～ 2020年1月31日		6,376,000		768,385		719,652

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 54,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,317,400	63,174	単元株式数は100株であります。権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 3,700		
発行済株式総数	6,376,000		
総株主の議決権		63,174	

【自己株式等】

2020年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ビューティガ レッジ	東京都世田谷区桜新町1丁 目34番25号	54,900	-	54,900	0.9
計		54,900	-	54,900	0.9

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当第3四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年11月1日から2020年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年5月1日から2020年1月31日まで)の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,052,533	1,574,600
受取手形及び売掛金	1,163,717	1,116,815
営業投資有価証券	-	87,700
商品及び製品	1,635,124	1,684,537
仕掛品	83,264	189,788
その他	506,694	615,951
貸倒引当金	16,969	14,015
流動資産合計	5,424,365	5,255,377
固定資産		
有形固定資産	251,499	296,177
無形固定資産		
のれん	146,732	119,405
その他	308,100	276,068
無形固定資産合計	454,832	395,473
投資その他の資産	696,664	630,041
固定資産合計	1,402,997	1,321,692
資産合計	6,827,362	6,577,070
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,233,436	776,801
短期借入金	47,000	27,000
1年内返済予定の長期借入金	157,802	179,892
未払金	280,290	181,502
未払法人税等	149,315	71,415
前受金	240,832	458,014
賞与引当金	50,628	138,713
訴訟損失引当金	12,274	-
その他	506,658	388,478
流動負債合計	2,678,238	2,221,817
固定負債		
長期借入金	158,400	187,486
ポイント引当金	74,442	86,499
資産除去債務	44,224	44,870
退職給付に係る負債	8,434	8,075
その他	53,263	66,836
固定負債合計	338,764	393,769
負債合計	3,017,003	2,615,586
純資産の部		
株主資本		
資本金	768,385	768,385
資本剰余金	712,345	713,956
利益剰余金	2,269,475	2,446,352
自己株式	351	87,535
株主資本合計	3,749,854	3,841,159
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,102	16,329
その他の包括利益累計額合計	6,102	16,329
新株予約権	1,028	-
非支配株主持分	65,578	136,654
純資産合計	3,810,358	3,961,483
負債純資産合計	6,827,362	6,577,070

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年5月1日 至2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年5月1日 至2020年1月31日)
売上高	9,745,276	11,487,039
売上原価	6,741,790	7,959,047
売上総利益	3,003,486	3,527,991
販売費及び一般管理費	2,691,057	3,112,900
営業利益	312,429	415,090
営業外収益		
受取利息及び配当金	21	64
固定資産売却益	-	4,298
投資有価証券売却益	-	5,746
その他	2,583	9,577
営業外収益合計	2,605	19,686
営業外費用		
支払利息	1,474	1,740
為替差損	7,633	-
障害者雇用納付金	1,160	1,280
その他	1,747	747
営業外費用合計	12,015	3,768
経常利益	303,019	431,008
特別利益		
固定資産売却益	97	-
特別利益合計	97	-
特別損失		
固定資産売却損	655	-
減損損失	-	16,695
特別損失合計	655	16,695
税金等調整前四半期純利益	302,461	414,313
法人税、住民税及び事業税	135,297	189,898
法人税等調整額	8,482	24,163
法人税等合計	126,815	165,735
四半期純利益	175,645	248,578
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,972	3,450
親会社株主に帰属する四半期純利益	171,672	245,127

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年5月1日 至2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年5月1日 至2020年1月31日)
四半期純利益	175,645	248,578
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	5,942	4,392
四半期包括利益	169,702	244,185
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	165,958	241,276
非支配株主に係る四半期包括利益	3,744	2,908

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)
前連結会計年度まで持分法を適用しない非連結子会社であった、台湾美麗平台股份有限公司については、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)
減価償却費	84,359 千円	116,447 千円
のれん償却費	30,073 千円	33,351 千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月14日 取締役会決議	普通株式	55,957	9.00	2018年4月30日	2018年7月27日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月13日 取締役会決議	普通株式	57,379	9.00	2019年4月30日	2019年7月26日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リユーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,576,767	1,866,142	302,366	9,745,276	-	9,745,276
セグメント間の内部売上高 又は振替高	170,593	29,903	25,840	226,337	226,337	-
計	7,747,361	1,896,045	328,206	9,971,614	226,337	9,745,276
セグメント利益	295,570	74,096	12,559	382,226	69,796	312,429

(注) 1. セグメント利益の調整額 69,796千円には、セグメント間取引消去64,487千円、未実現利益の調整額2,824千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 137,108千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リユーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,960,951	2,164,268	361,819	11,487,039	-	11,487,039
セグメント間の内部売上高 又は振替高	57,891	36,828	17,051	111,771	111,771	-
計	9,018,843	2,201,096	378,871	11,598,810	111,771	11,487,039
セグメント利益	405,845	107,850	28,978	542,673	127,583	415,090

(注) 1. セグメント利益の調整額 127,583千円には、セグメント間取引消去32,687千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 160,270千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

物販事業に属する連結子会社BEAUTY GARAGE MALAYSIA SDN.BHDに係るのれんについて、当初想定していた収益の達成に遅れが生じており、計画値の達成には時間を要すると判断したことから、未償却残高16,695千円を減損損失として特別損失に計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	26.96 円	38.72 円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	171,672	245,127
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	171,672	245,127
普通株式の期中平均株式数(株)	6,366,587	6,330,276
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	26.96 円	
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	817	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年3月12日

株式会社 ビューティガレッジ
取締役 会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 塚 亨

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 山 太 一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティガレッジの2019年5月1日から2020年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年11月1日から2020年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年5月1日から2020年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティガレッジ及び連結子会社の2020年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。